

# 国語科学習指導案

場所 南舎2階3年3組教室 (37人)

授業者 中村 敦夫

## 1 単元名 学びて時に之を習ふ — 「論語」から

## 2 生徒の実態

作文を始め、文章表現に苦手意識を抱えている生徒は少なくない。『論語』は、座右の銘にすることもあるほど日本人のもの見方・考え方に大きな影響を与えているが、2000年前の漢籍である『論語』を「縁遠い昔の書物」としてとらえる生徒は少なくない。令和に生きる中学生の彼らだが、『論語』の学習を通して自らの中にもそうした思いが流れていることに気づかせ、自らの生き方にも繋げたり、さらには解説文を書く課題によって自らの文章表現に自信をもつきっかけにできたらと考えている。

## 3 本時のねらい

論語に込められた孔子の教えを読み取り、自分の生活や体験と結びつけて考えたことを仲間と交流する中で、より相手に伝わる表現に結びつけることができる。【思考・判断・表現 C読む(1)エ】

## 4 本時の展開 (3/3)

過程	活動内容	指導・援助、研究について
導入	1 論語の音読 ○全員起立したまま、音読する。(マスク着用、同方向で) 2 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                         ㊦ 身近な出来事を上げながら「孔子の教え」を解説しよう。                     </div> 3 学習課題の取り組み方について見通しをもつ。 ○学習の進め方について説明する。 《解説文の例の提示》 「己の欲せざる所、人に施すこと勿かれ。」 (自分がして欲しくないようなことは、人にしてはいけない。) 4 自分が選んだ論語に、生活や体験と結びつけた解説文を書く。 ○論語に込められた孔子の教えを、自身の生活や体験、物語と結びつけながら解説文を書く。 ・「故きを温めて…」先行研究などをたくさん研究することで、自分ならではの発見ができれば、人に教える資格ができる。 ・「学びて思はざれば…」公式を学ぶだけではなく、何回も計算練習をしておかないと、本当に身に付けたこととは言えない。 ・「之を知る者は…」知識や経験があるだけではそれを愛好する人には及ばない。さらにそれを楽しんでいる人には及ばない。 5 解説文をグループ内で発表し、評価し合う。 ○互いに解説文を発表し合い、感想やアドバイスを送り合う。 《評価のポイント》 ・解説文と孔子の教えが一致したものとなっているか。 ・孔子の教えが分かりやすく述べられ、伝わったか。	◇ワークシートを班内で回し読みをする場面があるため、授業の前後に手洗いと手指消毒を徹底する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                         ☆<u>研究内容2</u>  <u>生徒の主体性を引き出す手立て</u>                          前時に学習した論語についての解説文の例示を行い、何をどのようにするのかを明確にすることで、本時の課題の完成の見通しがもてるようにする。                     </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                         ☆<u>研究内容2</u>  <u>生徒の相互作用を生み出す手立て</u>                          同じ論語を選んだ仲間と交流する活動を通して、仲間の作品に刺激を受けたり、アドバイスをもらったりすることで、より良い作品に近づけることができるようにする。                     </div> 《評価規準》
展開	6 本時の振り返りをする。 ○解説文を書いてみての感想を、まとめとして記入する。 7 次時の学習内容について伝える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                         論語の一節を読み取り、自身の生活や体験と結びつけて関連付けて考えたことを、他の仲間と進んで交流する中でさらに孔子の教えについての表現をより分かりやすくすることができている。【思考・判断・表現C読む(1)エ】                     </div>
終末		

## 5 研究に関わって

### <研究内容2>

#### 本時の手立て・活動 と 期待する効果

##### ①例示から自力解決への見通しをもつ

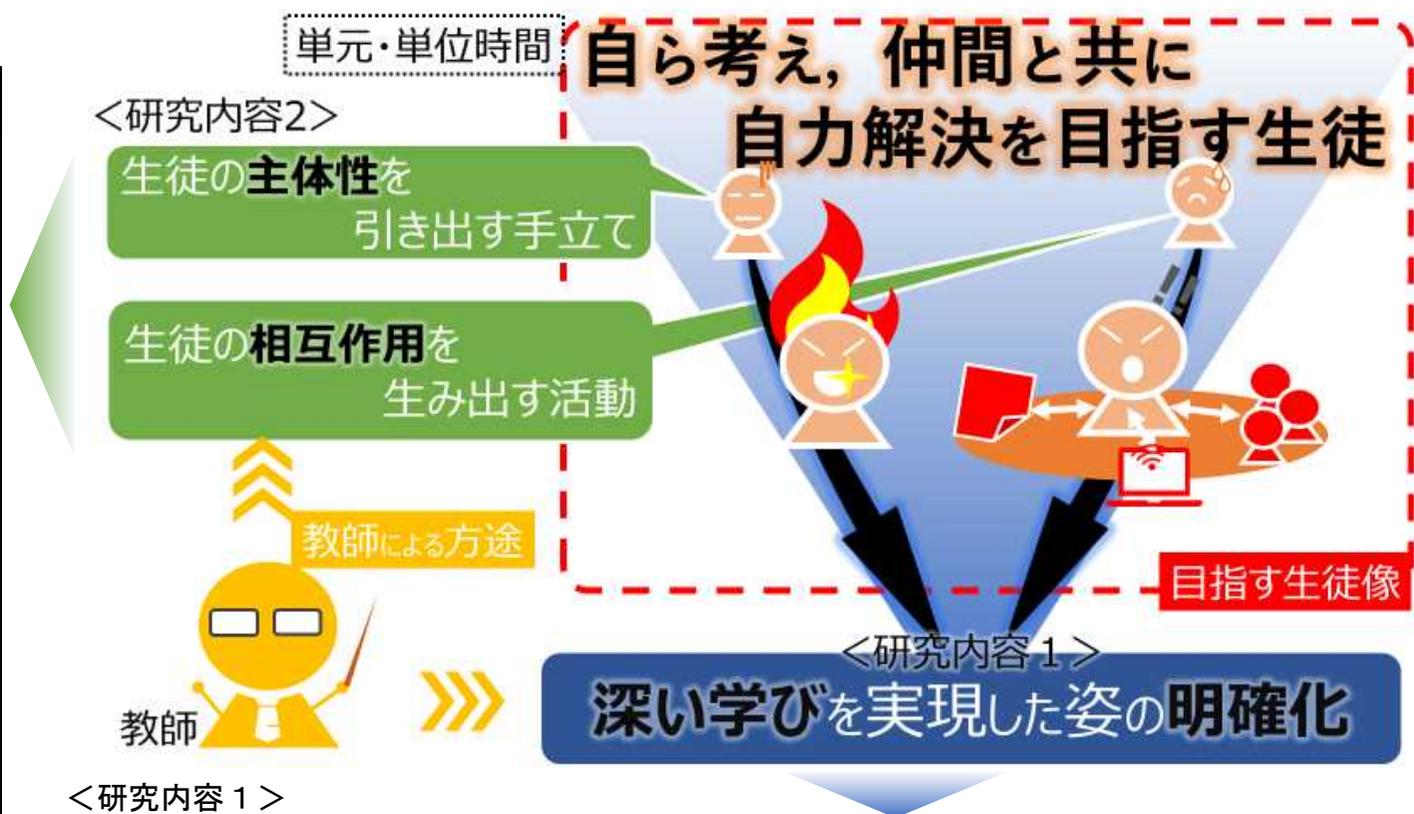
「論語」にあげられた代表的なものを読む中で、現代人の私たちにも通じるものの見方・考え方について捉えていく。解説文を書くにあたっては、教えとエピソード内容についてとのつながりを十分に理解することが求められる。既習の「己の欲せざる所」「学びて時に之を習ふ」の解説文の提示を通して、解説文の構成の仕方や書きぶりなどを具体的にイメージできるようにする。

「孔子の教え」が、自分たちの生活場面に本当につながっているのかを検証することは、文字面だけではない深い理解につながると期待する。

##### ②仲間との相互評価から学習を振り返る

自らの体験や場面のイメージがもてる解説文を自力解決で書き上げた後、同じ論語を選んだ者同士のグループに分かれ、仲間の作った解説文を互いに読み合い、感想やアドバイスを送り合う。

感想やアドバイスを文章で書くのにある程度の時間がかかる生徒もあるため、時間の保証が必要だが、仲間からの助言をもとに自信をもったり、さらに伝わる解説文にグレードアップできたりすることが期待される。



### <研究内容1>

本時の深い学び	本時の深い学びを実現した姿（具体）
自分が選んだ「論語」と、その理由を自身の体験や物語で身近な例として説明した解説文を互いに読み合う交流活動を行う。互いに評価することで、自分の解説文に自信をもったり自分の考えをさらに深めたり広げたりすることにつなげ、孔子の教えについての理解をいっそう深めることができる。	<p>「学びて思はざれば則ち……」            数学の公式を学ぶだけでは、本当に知識を得たとは言えない。その公式を使って何回も計算練習しているんな場面で使いこなすことができたときにこそ、真に公式を学び身に付けたと言える。独りよがりだと失敗することもあるから、いろいろと他人の意見も聞くべきだ。</p> <p>◇具体例のエピソードがじっくりこなかったけれど、〇〇さんの話を聞いて、それだけでなく論語の教えから少しずつ分ることが分かった。</p> <p>◇自分が選んだ論語を説明するために入れたエピソードがやや伝わりづらかったので、〇〇さんがアドバイスしてくれたようにドラマ仕立てのような文体にしたら分かりやすくなってよかった。</p>